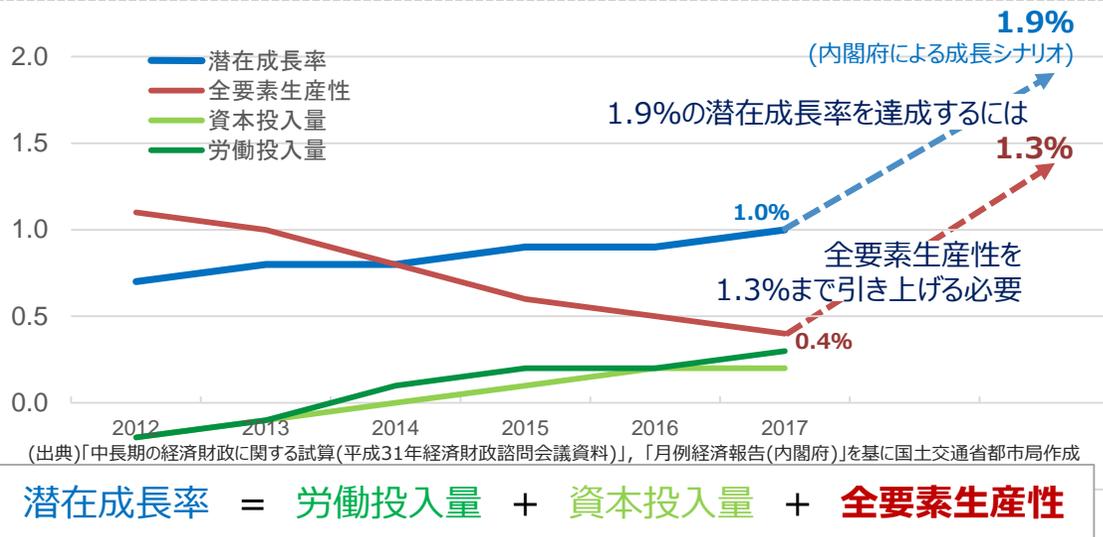


# 事務局説明資料

---

令和元年5月30日  
国土交通省都市局

- 人口減少社会において経済成長を持続するには、生産年齢人口の減少を上回る生産性向上が必要。
- 一方、働き手や企業構成など社会経済には「多様性」の兆候がみられ、これら多様性の集積・交流を通じた「イノベーション」の創出を「生産性向上」につなげられれば、一定の経済成長は可能。
- その際、「偶然の出会い」や「リアルな繋がり」をはじめ、都市空間にはどのような機能が必要か。また、そのためにはどのような取組が必要か。



## 社会経済における「多様性」の例

### 働き手の多様化：

女性就労率 **約50%**(2017)  
 高齢者就労率 **約45%**(2017)  
 (65~69歳)

### 企業構成の多様化：

国内VC\*等によるベンチャー企業投資額  
 5年で**2.7倍**(2012→17)  
※ベンチャーキャピタル企業

### 働き方の多様化：

都内のコワーキング・スペース  
**累計6万㎡以上**(2018)  
 フリーランスによる経済規模  
**20.1兆円**(2018)

### 消費の多様化：

訪日外国人旅行者による消費額  
**4.5兆円**(2018)

**「多様性」と「イノベーション」を通じた付加価値創出により、生産性の向上につなげられないか。そのために都市が果たす役割は何か。**

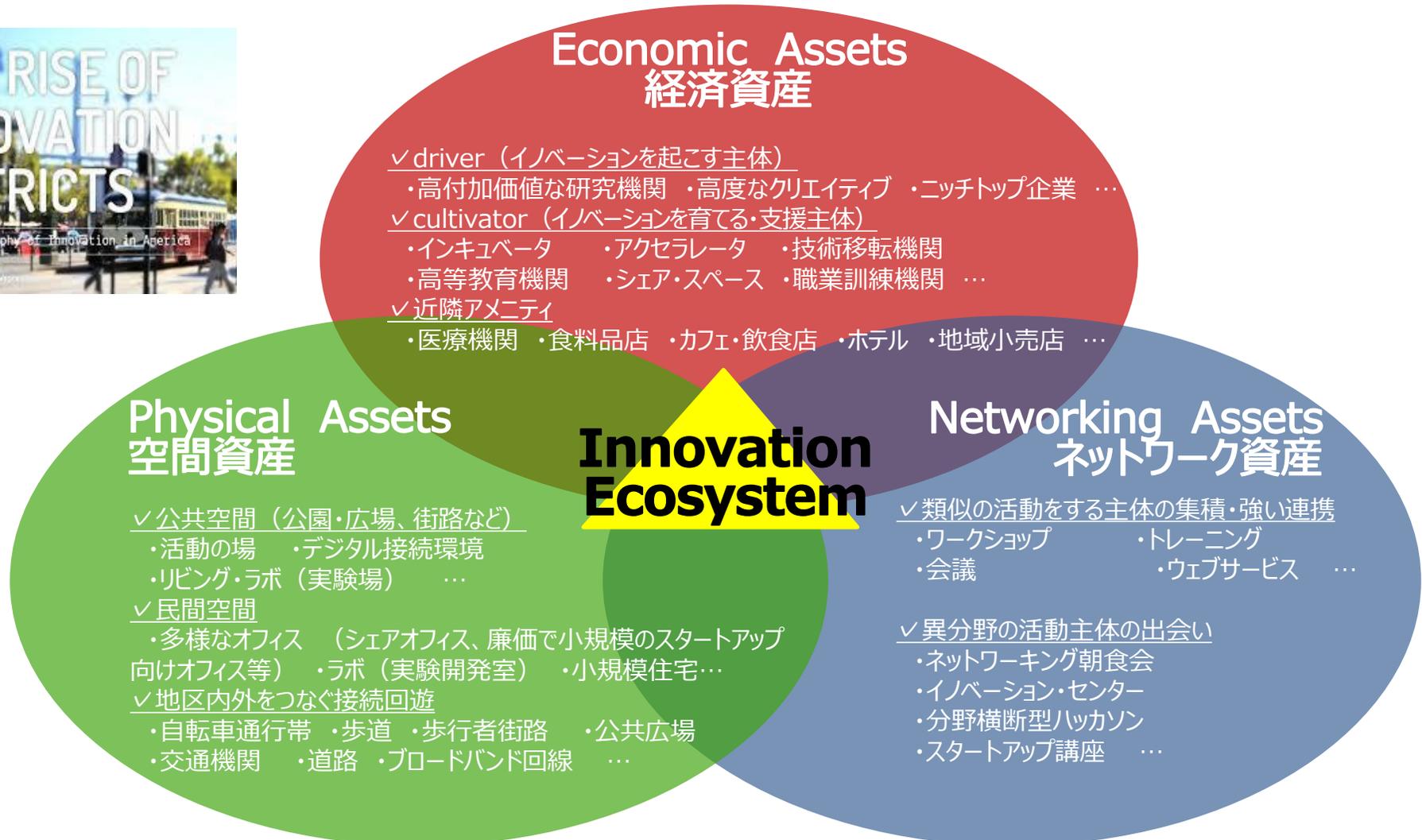
“偶然の出会い”を生む「都市空間」  
 (カフェ、ストリート、広場、公園、水辺等)

+

“リアルな繋がり”を育む  
 「コミュニティ」×「場（プレイス）」  
 (コミュニティマネジャー、インキュベーション・コワーキングスペース等)

まち・エリア全体の価値を高める  
 「オペレーションシステム」  
 (エリアマネジメント、リノベーションまちづくり等)

米国・ブルッキングス研究所のレポート（2014“イノベーション地区の勃興”）によれば、イノベーションを生み出すエリア「Innovation Districts」には、「経済資産」、「ネットワーク資産」、「空間資産」の3つの要素が必要とされる。



N YのN P O法人のツール「Power of 10+」によれば、都市が新しい住民、ビジネス及び投資を引きつけるには、どのような規模の都市も、

- ・最低10箇所、人々が居たいと思う目的地（広場、大通り、ウォーターフロント、公園、美術館等）を有する必要があり、
- ・各目的地に、10か所以上の場所（座る場所、遊ぶ場所、絵を描く場所、音楽を聴く場所、食べる場所、歴史を感じる場所、人に会う場所等）があることが必要とされている。

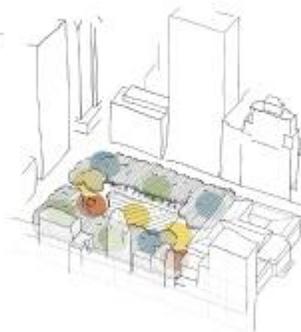
## POWER OF 10+

HOW CITIES TRANSFORM THROUGH PLACEMAKING



City/Region

10+ MAJOR DESTINATIONS



Destination

10+ PLACES IN EACH



Place

10+ THINGS TO DO,  
LAYERED TO CREATE SYNERGY



豪・メルボルンの広場：

一つのスペースを誰一人として同じ使い方をしない。

## 第1回（2月19日(火) 8：30～11：00）：総論

## 第2回（3月5日(火) 9：00～11：00）：〈主なテーマ〉都市の競争力・特性×まち

梅澤高明 ATカーニー日本法人会長（著書『NEXT TOKYO』で、「クリエイティブシティ」「テックシティ」「フィットネスシティ」と「特区戦略」を提言）

島原万丈 株式会社LIFULL LIFULL HOME'S総研所長（『本当に住んで幸せな街』著者。「他者との関係に生きる都市」「五感で感じる都市」を提言）

七尾克久 三井不動産株式会社 日本橋街づくり推進部長（「産業創造」「界限創生」「地域共生」「水都再生」のコンセプトで日本橋再生を推進）

## 第3回（3月12日(火) 9：00～11：00）：〈主なテーマ〉女性や高齢者等の活躍×まち

市川宏雄 一般財団法人森記念財団 都市戦略研究所 業務理事（「世界都市総合ランキング」、「日本の都市特性評価」を発表）

岡本純子 株式会社グローコム 代表取締役社長（『世界一孤独な日本のおじさん』著者。都市化に伴う孤独への対策を提言）

田中元子 株式会社グランドレベル 代表取締役（『マイパブリックとグランドレベル』著者。墨田区千歳で多世代交流拠点「喫茶ランドリー」を運営）

東浦亮典 東京急行電鉄株式会社 執行役員 都市創造本部運営事業部長（『私鉄3.0』著者。「次世代郊外まちづくり」、「東急アクセラレートプログラム」等を立ち上げ）

## 第4回（4月12日(金) 10：00～12：00）：〈主なテーマ〉スタートアップ×まち

入山章栄 早稲田大学大学院経営管理研究科教授（主に経営戦略論、国際経営論を専門に研究。イノベーションが生まれる都市の条件を提言）

重松眞理子 三菱地所株式会社 開発推進部都市計画室長

（リノベーションした高経年ビルにスタートアップ拠点整備、生産性向上に資するオフィス改革、大丸有地区のエリアマネジメント推進）

的野浩一 福岡市住宅都市局イノベーション課長（スタートアップ都市宣言、天神ビッグバン、国家戦略特区の特例制度を活用したオープンカフェ）

## 第5回（4月19日(金) 15：00～17：00）：〈主なテーマ〉まちをシェア×まち

石澤正芳 株式会社Mellow 代表取締役（ビルの空きスペースとフードトラックのマッチング事業を実施）

三輪律江 横浜市立大学国際総合科学部都市学系・准教授（『まち保育のススメ』著者。子供をまち全体で保育する“まち保育”を提唱）

小泉秀樹 東京大学まちづくり研究室教授（主にコミュニティ・デザイン、協働のまちづくり、イノベティブな都市を提言）

## 第6回（5月9日(木) 9：30～11：30）：「中間論点整理（骨子）」（たたき台）の議論

## 第7回（5月30日(木) 13：00～15：00）：

### **地方都市に係るヒアリング、「中間論点整理（骨子）」（たたき台）の議論②**

鵜殿裕 日本商工会議所 地域振興部主席調査役

中山靖史 独立行政法人都市再生機構 都市再生部事業企画室長

## 第8回（6月10日(月) 17：00～19：00）：中間とりまとめ（案）の議論

## 夏頃 中間とりまとめ予定

## テーマ：地方都市に係るヒアリング

- 少子高齢化や人口減少が既に本格化している地方都市において、魅力・磁力を高め、内外の人材を惹きつけるためには、どのような取組が考えられるか。
- そのまちならではの魅力・磁力を高め、他の都市と均質化しないオンリーワンのまちづくりを進める上で、どのような点に留意すべきか。

## 鵜殿 裕 日本商工会議所 地域振興部 主席調査役



1993年日本開発銀行（現・日本政策投資銀行）に入行、運輸省（現・国土交通省）出向などを経て、2014年に日本政策投資銀行富山事務所長に就任、2017年から現職。

## 中山 靖史 独立行政法人都市再生機構 都市再生部 事業企画室長



1989年住宅・都市整備公団入社。関西支社、東京支社にて法定再開発の事業推進業務を担当。1993年建設省住宅局市街地建築課にて行政研修。UR都市機構発足時の2004年に本社都市再生プロデュースチームにおいてコーディネート業務や事業組成の総括業務を担当。2009年大手町業務部整備第1チームリーダー。大手町連鎖型再開発や虎の門2丁目地区再開発事業を担当。2014年本社技術・コスト管理部企画チームリーダー。技術部門総括と組織人事を担当。2017年東日本都市再生本部事業企画部長。新規都市再生事業の組成を担当。2019年より現職。